

内分泌・代謝疾患

科目責任者 麻 生 好 正
学年 6 学年

I. 前 文

内分泌・代謝疾患の検査から病態・治療を含めて国家試験受験にぜひとも知っていなければならない必須項目・重点項目について、短期集中型で講義する。

II. 学修の到達目標

糖尿病、脂質代謝、主要な内分泌疾患について、病態生理に基づいた論理的な診断法、治療法を履修する。国家試験受験に対応できる基本的な知識を身につけ、応用力も習得する。

III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（30分）：3学年時に学んだ系統講義を復習し、糖尿病、主要な内分泌疾患の病態生理を理解しておく。予習用の資料を配信するので、必ず予習すること。講義当日予習資料よりミニテストを行う。

事後学習（30分）：主要な内分泌疾患の診断に重要な自覚・他覚症状、検査法および検査所見を復習する。糖尿病に関しては、合併症の種類、病因の基づいた種々の薬物治療を記憶する。

IV. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	22	火	6	甲状腺疾患	内科学（内分泌代謝） 登 丸 琢 也	1
2		23	水	1	副腎疾患（MEN含む）	内科学（内分泌代謝） 登 丸 琢 也	1
3		23	水	2	下垂体疾患	内科学（内分泌代謝） 登 丸 琢 也	1
4		23	水	3	糖尿病①（診断・治療）	内科学（内分泌代謝） 薄 井 勲	1
5		23	水	4	糖尿病②（合併症・低血糖疾患）	内科学（内分泌代謝） 薄 井 勲	1
6		23	水	5	脂質異常症（尿酸・ビタミンを含む）	内科学（内分泌代謝） 城 島 輝 雄	1
7		23	水	6	副甲状腺疾患	内科学（内分泌代謝） 城 島 輝 雄	1

V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験の成績に出席状況、講義当日のミニテストの結果を加味して判定する。

VI. 医師国家試験出題基準（令和6年版）における区分

医学総論（Ⅲ人体の正常構造と機能）-9-A-①②③④, B - ①②③④

（Ⅴ病因, 病態生理）-8-A-①②, B-①②③

（Ⅵ症候）-10-A, B-①, C - ①, D-①, E

（Ⅷ検査）- 2-F-①②③④

医学各論（Ⅹ内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患）-1-B-①②③④⑤⑥⑦⑧, 2-A-①②, 2-B-①②③, 2-C-①②③④,

六
学
年

3-A-①②, 3-B-①②③④

4-A-①②③④, 4-B-①②, 6-A-①②③④, 6-B-①②③, 6-C-①②③④⑤, 6-D-①②③④⑥, 7-A-①②,
7-B-①②③, 9-A-①, 9-B-①②

VII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

VIII. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験後回答を公開、質問を随時受け付ける。但し事前に秘書を通してアポイントを必ず取ること。